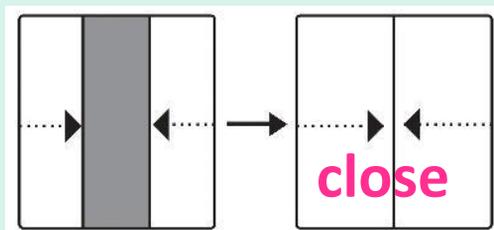
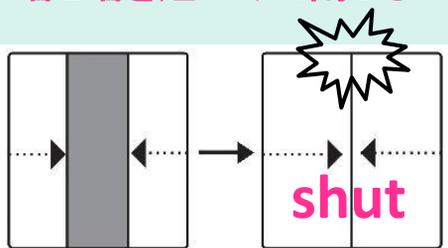


# < 基本動詞 > close & shutの世界

## CORE IMAGE



端と端を近づけて閉じる



隙間なくピシャッと閉める

The door banged shut.



close と shut はとても紛らわしい動詞です。というより、どちらでもよい場合が多々あります。**Sorry, we're closed.** (閉店いたしました)は Yes, we're open. (開店しています)との対比で慣用的に使われますが、「口を閉じる」は **close / shut one's mouth** の両方可能だし、「工場を閉鎖する」も **close / shut a factory** と両方可能です。しかし、形が違えば意味も違うという原則からは、両者に意味上の違いがあるはずですが。ここでは、その違いを探りながら、2つの動詞の使い方を見ていきましょう。



Sorry, we're **closed**.

(本日は)閉店いたしました



**close / shut** one's mouth

口を閉じる



## close / shut a factory

工場を閉鎖する

closeのコアは、「端と端を近づけて閉じる」というもの。

開いているものを閉じる(閉める)というのが基本的な意味で、「店を閉める(操業を止める)」「取引を完了する」「話を終える」などの意味合いで用いられます。**Close your eyes.** といえば「目を閉じて」ということ。**Sorry, we're closed.** は「本日は閉店いたしました」ということです。**I'd like to close my bank account.** といえば「銀行口座を閉じたいと思います」という意味合い。演説を締めくくるときは close がピッタリで、**The President closed his speech with a quote from Lincoln.** (大統領はリンカーンの言葉を引用して演説を締めくくった)のようになっています。



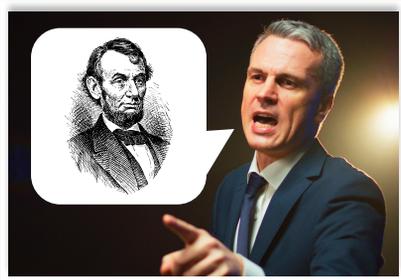
## Close your eyes.

目を閉じて



## I'd like to close my bank account.

銀行口座を閉じたいと思います



## The President closed his speech with a quote from Lincoln.

大統領はリンカーンの言葉を引用して演説を締めくくった

一方、shut は「隙間なくピシャッと閉める」がコアで、close のように両端を近づけて閉じるといよりもむしろ、閉める瞬間を強調する動詞だと言えます。

そこで閉める際の音が聞こえるような場合の **The door banged shut.** (ドアはバタンと音をたてて閉まった)では shut が自然です。つまり、**close the door** だと開いているドアを動かして閉じるといった感じがありますが、**shut the door** だと隙間なくバーンと閉めるという感じがします。「指をドアに挟む」は **shut one's finger in the door** で close では不自然です。また、「大口を叩くのを止めてくれる？」などは **Shut your big mouth, will you?** のように shut がピッタリです。さっさと口を閉じなさいということです。



## close the door / shut the door

(開いている)ドアを(動かして)閉じる /  
(隙間なくバーンと)ドアを閉める



## shut one's finger in the door

指をドアに挟む



## Shut your big mouth, will you?

大口を叩くのを止めてくれる？

工場を閉鎖するという場合は **shut down** を使い、**I've been out of work since they shut down the factory.** (工場が閉鎖されてからずっと失業中だ)のように表現します。



I've been out of work since they  
**shut** down the factory.

工場が閉鎖されてからずっと失業中だ